



LTのすゝめ

LTのコツを伝授します！

話し手

山本 直輝

フロントエンドエンジニア / PM / 講師

- 株式会社Nevers / フリーランス
- デジハリ広島 卒業生/元トレーナー
- ひろしまクリエイターズギルド運営

ワーホリでオーストラリア行ってました。

料理が趣味で、猫とコーヒーが好き。



LTやったことない人？

そもそもLTが何かわからない人もいるかも

当セッションでは、LT初心者に向けて
LTとはなんなのかといった基本的なこと
また、LTを上手にやるテクニックや
練習方法についてお話しします

目次

1. LTとは
2. コンセプト作り
3. スライド・台本作り
4. 練習方法
5. 発表のコツ
6. まとめ





LTとは

らいとにんぐとーく…?

Lightning Talk の略で、
5分～15分程度の制限時間の中で、あるテーマについて喋る

※30分以上の長いセッションだとLong Talkとも

なんでやるの？

- プrezen力や、雑談力を鍛える機会になる
- 交流を広げるチャンスになる
- 勉強する動機づけになる
- 発表が楽しい

つまり

やらない理由が
にゃい…



というわけで、LT初心者の方にむけて
本セッションを設けました！

ここからはLTのやり方について
順を追って解説していきます！

コンセプト作り

ネタ選びや発表のパターンを考える



まずはネタ選びから

- 自分が興味あるものであることが大事
- 多少お題からそれでも問題ない、面白ければなんでもいい
- レベルは気にするな、初心者の視点はベテランには新鮮
- 時事ネタが絡むとGood

話の運び方

よくやるパターン3つを紹介！

やってみた(研究発表)

例)いろんな炭酸でメントスコーラやってみた

LT発表までにやったことをまとめて発表する。

LTを理由に何かに挑戦することを「LT駆動」と言うこともある。

勉強のモチベにもなるし、スライド作りも難しくないので初心者にオススメ！

しくじり(失敗談)

例)僕がメントスコーラで失ったもの

失敗談をベースに大事にしていることについて発表する。

失敗談はハズしにくいので、ネタにパンチが欲しい人にオススメ！

スライド作りは資料集めがちょっと大変かも？

こばなし(講義)

例) 実は身近なメントスコーラ現象

話したいテーマや結論に沿って順序立てて小噺を展開する。

勉強や復習の機会になるので、作り手にも聞き手にもメリットが大きい。

資料作りは大変だし、面白くするには技が必要かも？

スライド・台本作り

発表の武器となるスライドを作る



スライドは多ければ多いほどいい

- 一枚のスライドに入れる情報量は極力少なくする
- 後ろの席の人でも見やすいように文字の大きさは大きくする
- テンポよく次のスライドへ移動することで動きを出す
- 5分のLTなら30~60枚くらいあっていい
- 小ネタも仕込んでいく

時間調整用のスライドを後半に持ってくる

- 嘩ってもいいし喋らなくてもいいスライドを用意する
- 時間が足りなければ省略することで対処できる
- 時間が余ったら追加で喋ることで対処できる

スライドが台本みたいなものという位置付け

- LTのポイントは聴衆を巻き込んで面白く喋ること
- 台本に集中してボソボソ喋るのが一番よくない
- 丸暗記してしまうか、スライドをみながらアドリブで喋るか
- 本番で喋るための武器になるので、スライドの作り込みはしっかり

構成は ”導入1・序論2・本論6・結論1”

- 今から喋ること(30秒/5分)
- なんで喋ろうと思ったか(1分/5分)
- 本題(3分/5分)
- まとめ(30秒/5分)

聴衆を巻き込むテクニック

- 聴衆に質問して手をあげてもらう、または当てる意見を言ってもらう
- 最初に謎を投げかけて、最後に答え合わせする
- クイズなどミニゲームをやる
- こんなことがありますよね？と、強引に巻き込む
- お約束の掛け声やツッコミを共有する
- 身内ネタはほどほどに

ところで



Slidev

New Docs!



今回のスライド制作は "Slidev" を使用してい ます。

nodeで動かすプレゼン作成用のフレーム
ワークで、markdownで書けるし、Gitで
差分管理もできちゃう。

iframeの埋め込みやシンタックスハイライ
ト、アニメーションまでつれちゃう。便利な
やつです。



Slidev

Presentation Slides for
Developers

もちろんFigmaなどを使っても
よいです

使い慣れたものを使いましょう

次行ってみよう！

練習方法

どんな練習をすれば良いか知ろう



ストップウォッチで時間を測りながら喋ってみる

- 話題の転換点になるスライドなどで何分何秒喋ったかをメモ
- 本番で時間の過不足を感じられるようになる
- 本番で早口になるタイプの人はやや時間オーバー気味に調整する

発表練習を誰かに聞いてもらう

- 声の出し方や抑揚の付け方も意識する
- 視線の向きにも注意、スライドをずっと凝視しつづけない
- 一人の時は録音してみよう

発表のコツ

発表する時に意識すること



発表開始と同時にストップウォッチを動かそう

- ストップウォッチを見て練習の時のスピード感と比べながら喋る
- 早すぎる時はゆっくり喋ることを意識したり、追加で小ネタを挟んだりする
- 遅すぎる時ははやく喋ることを意識したり、話すことを省略したりする

前を向いてハキハキ喋ろう

- スライドをチラ見しつつ、前を向いて喋る
- 前向くことを意識するだけでもかなり声の通りがよくなる
- お客様をみて緊張する場合はお客様の上の虚空に向かって喋る

話すことを忘れたらスライドをそのまま読み上げよう

- スライドは台本みたいなものなの
- そのまま読み上げて進めても問題ないようにしておく
- アドリブは場数を踏むとできるようになる

発表は「間」を大事にしよう

- 聴衆についてきてもらう、考えてもらう時間を与える
- いまから話題を転換しますよの間
- 疑問に思って欲しいポイントですよの間
- ここは笑いどころですよの間

まとめ

これでLTをやる準備はできたぞ！



LTはメリットがいっぱい！

Lightning Talkの略で、5分～15分程度の制限時間の中で、あるテーマについて喋る

- プrezen力・雑談力の向上
- 勉強の動機付けになる
- 交流が広がる
- 発表が楽しい

コンセプトは興味あるものを

レベルは気にしない

- やってみた(研究発表)
- しくじり(失敗談)
- こばなし(講義)

スライドはしっかり作り込む

発表する時に頼れる武器になる

- スライドは多ければ多いほどいい
- 時間調整用のスライドを後半に持ってくる
- スライドが台本みたいなものという位置付け
- 構成は ”導入1・序論2・本論6・結論1”
- 聴衆を巻き込むテクニックを活用する

練習もしっかりやる

時間ぴったりに喋れるのがかっこいいぞ

- ストップウォッチで時間を測りながら喋ってみる
- 発表練習を誰かに聞いてもらう

発表する時に意識すること

誰だって緊張するぞ！いい緊張を感じよう！

- 発表開始と同時にストップウォッチを動かそう
- 前を向いてハキハキ喋ろう
- 話すことを忘れたらスライドをそのまま読み上げよう
- 発表は「間」を大事にしよう



LTのすゝめ

発表は以上です。

ご清聴ありがとうございました。